

# Newsletter No.24

2025.9. 18

会員みなさまへ

(財)こころのバリアフリー研究会 理事長

秋山 剛



気候温暖化、災害、そして戦争など、人類のメンタルヘル스에悪影響を及ぼすような状況が続いています。メンタルヘルスを改善していくための私たちの活動の重要性が、ますます高まっているように感じます。今回のニュースレターでは、第11回こころのバリアフリー研究会総会で、プログラム委員として活躍していただいた方々から、報告をいただいています。峰松さんがおっしゃるように、プログラム委員同士の関係も、より密になっていると感じますし、また、総会参加者同士の結びつきも強まっているように感じます。日本では、非自発的な入院や非自発的な処遇が多いという問題が以前から指摘されていまして、杉浦さんたちのシンポジウムは、意義の高いものでした。「十年一昔」とはよく言いますが、宇田川さん、増川さんのワールドカフェは「十年一未来」をみんなで考えるという、想像力が刺激される、ワクワクするような企画でした。就労は、リカバリーの中でも、大きな位置を占めます。関さんたちのシンポジウムで、サポート体制の構築と障害当事者の能力を最大限に引き出すことを、どう実現していけるか、話し合っただけなのは、素晴らしいと思います。金山さんのピアサポーターの活動に関するシンポジウムでは、障がい者ピアサポート研修の存在意義、問題について、突っ込んだ発表や討論がありました。今から、第12回総会が楽しみです！

目次 1頁 理事長からの挨拶  
2~7頁  
【第11回こころのバリアフリー研究会総会に参加して】  
峰松弘子（長崎キャリア支援センター）  
  
【精神保健・医療における人権と制度改革】  
杉浦寛奈（国立精神神経医療研究センター）

【シンポジウム「就労が続けやすくなるための障害への理解とは」を担当して】

関 茂樹（特定非営利活動法人シルバーリボンジャパン）

【私が願う“こころのバリアフリー” ～次の10年へ～】

宇田川 健（認定NPO法人コンボ）

増川ねてる（アドバンスレベル WRAP®ファシリテーター  
；米国 AHP 認定）

植田太郎（社会福祉法人巣立ち会）、

金山 達也（NPO 法人日本学び協会ワンモア豊中）

【障がい者ピアサポート研修 実施状況と受講者報告】

金山 達也（NPO 法人日本学び協会ワンモア豊中）

【第11回こころのバリアフリー研究会総会に参加して】

峰松弘子（長崎キャリア支援センター）



今回第11回こころのバリアフリー総会に参加して強く感じたことは、プログラム委員同士の関係がより高まってきているな、と思ったことです。

私は今回第1日目の司会を担当させていただきましたが、月1回の打ち合わせにほぼ参加していたので、総会全体の流れを掴むことが出来、各シンポジウムの座長・演者の方々の抄録をしっかりと読み込んでからの参加だったので、会場で初めてお会いした方々ともスムーズなご挨拶が出来、ご紹介をすることが出来たように思います。

事務局担当者の方のご苦勞もあって、チーム内の情報共有がスムーズでチーム内の人材の強みを活かし、イレギュラーの事態に対してもチームメンバーに開示していただいたので、それに対する対応策を皆で考える事が出来ました。今回特に素晴らしかったことは、チラシの完成時期が2ヶ月前には完成出来たことと一人一役の役割分担がしっかり機能していたことです。

いよいよ第12回総会に向けてプログラム委員会が動き出しました。

総会テーマ、シンポジウム、市民講座の演者候補者など盛りだくさんの提案があり、各メンバーの熱い思いを感じました。

次回からは、またメンバーの熱い思いを形にすることで、より世界レベルでのこころのバリアフリー実現に向かって活動を広げていけると思います。今から楽しみになってきました。

## 【精神保健・医療における人権と制度改革】

杉浦寛奈（国立精神神経医療研究センター）

精神保健・医療における人権を問い直す本シンポジウムでは、法学者、社会学者、当事者など多様な立場の登壇者が集い、熱のこもった議論が交わされた。

非自発入院を中心に、制度の不透明さや強制の問題が浮き彫りとなり、当事者の声が尊重される医療の実現に向けた課題と希望が語られた。各発表は、現場での葛藤や調査から導き出された提言に満ちたものとなった。



## 【シンポジウム「就労が続けやすくなるための障害への理解とは」を担当して】

関茂樹（特定非営利活動法人シルバーリボンジャパン）

この度は「就労が続けやすくなるための障害への理解とは」とのテーマで、シンポジウムの座長を担わせていただいた。テーマの通り、どうしたら障害のある人が就労を定着できるようになるかを検証し、それを実現することを目指し、障害当事者・援助者・企業の各立場の方から課題、想い、日々の実践等話を話していただいた。障害はその人の一部であって全部ではなく、障害がある故に見えるもの、得られるものがある。障害を個で抱えずチームとして向き合い、環境を整備する。個人にフォーカスしたサポート体制の構築と障害当事者の能力を最大限に引き出すための職場の雰囲気づくり（障害理解）。大変耳よりで価値ある話が飛び交っていたが、三者の実践は障害者雇用の枠組みに留まらず、全ての産業や雇用分野に通じ、恩恵をもたらすことができる有意義な取り組みだと感じた。故に社会全体でそのような機運を醸成していく必要があるだろう。



## 【私が願う“こころのバリアフリー” ～次の10年へ～】

宇田川 健（認定 NPO 法人コンボ）

増川ねてる（アドバンスレベル WRAP®ファシリテーター  
；米国 AHP 認定）

植田太郎（社会福祉法人巣立ち会）、

金山 達也（NPO 法人日本学び協会ワンモア豊中）



今はあるけど、10年前にはなかったものは何でしょう？

コロナはなかったですし、chatGPT…AIの活用も今程ではなかったと思います。

20年前では、どうでしょう？

リカバリーや、ピアサポートも殆ど聞かなかったように思われます。

変化の早い現代。

つぎの10年。2025年～2035年の《こころのバリアフリー》はどうなるのでしょうか？

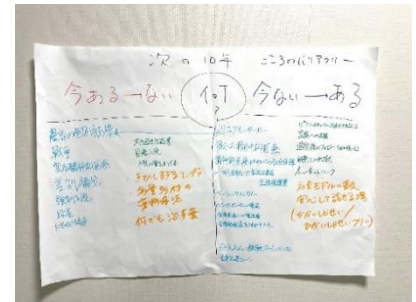
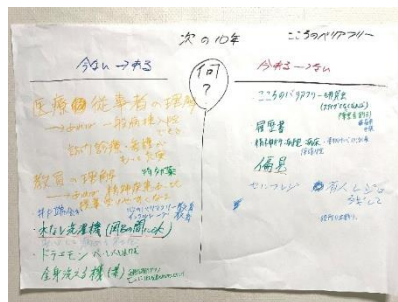
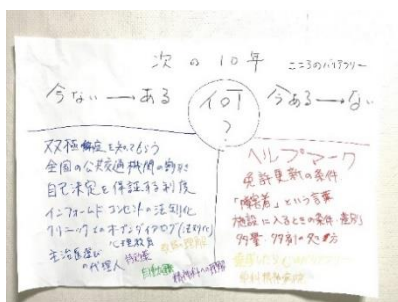
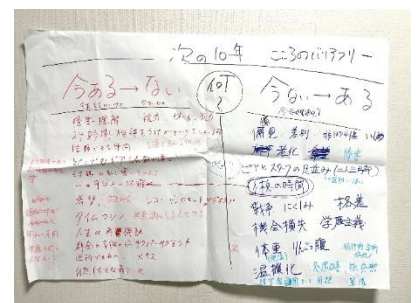
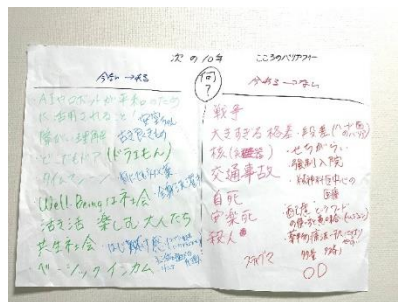
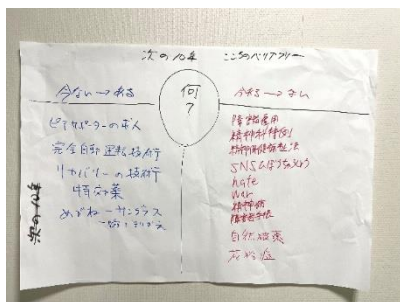
2025年のワールドカフェは、“次の10年”を展望する場としました。

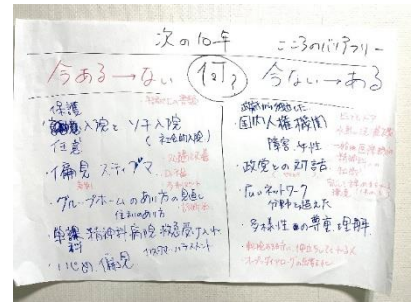
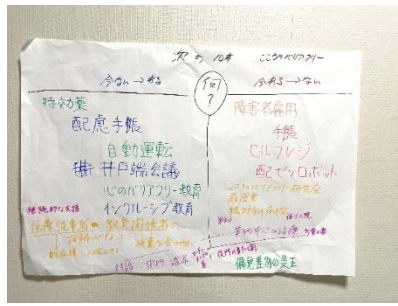
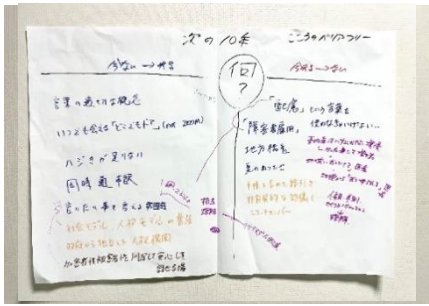
テーマは、

### 「2025年～2035年の《こころのバリアフリー》」

.....

4人1組になって、まず考えたのは、今ない⇒10年後ある / 今ある⇒10年後ない





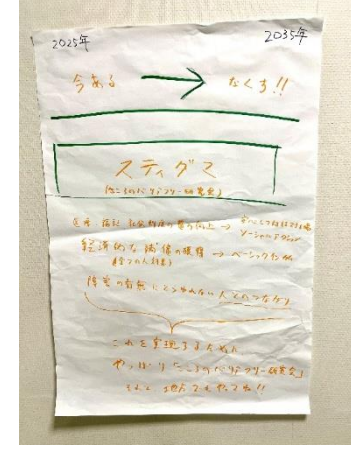
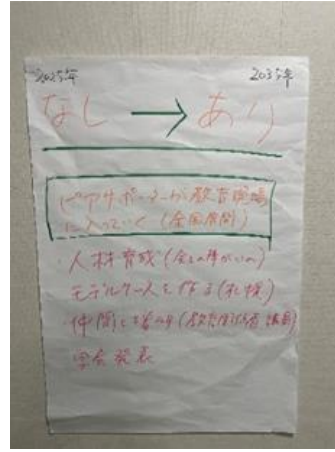
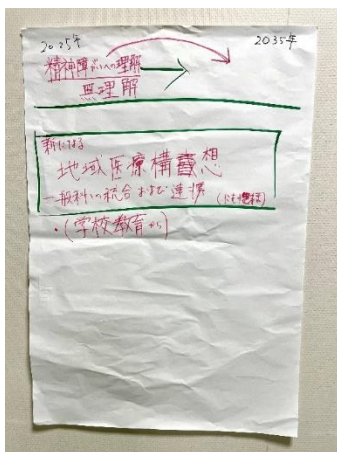
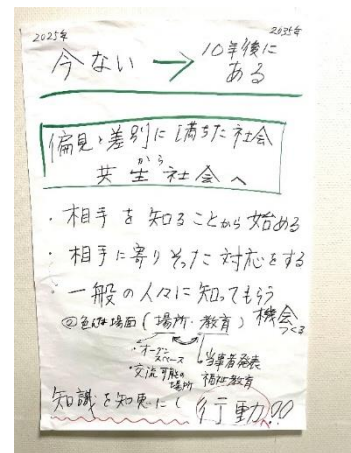
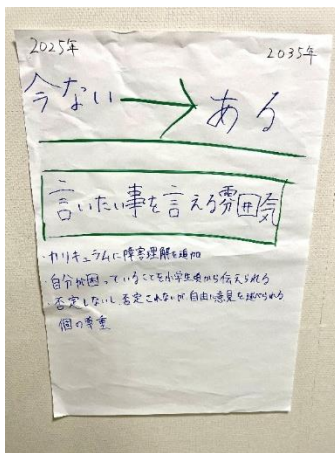
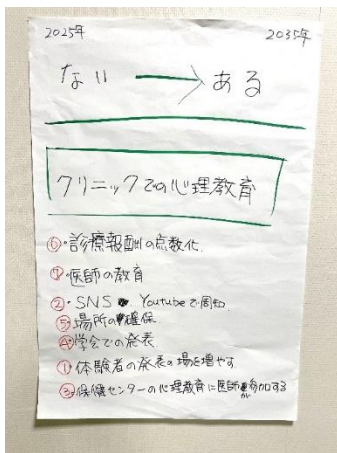
一人ひとりの想いが、課題意識が浮上してくる時間でした。  
そして、他のグループの考えを見て回り、  
次の問い。

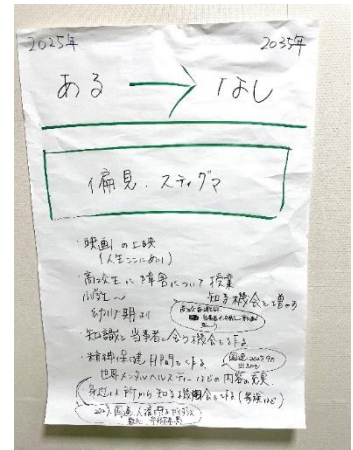
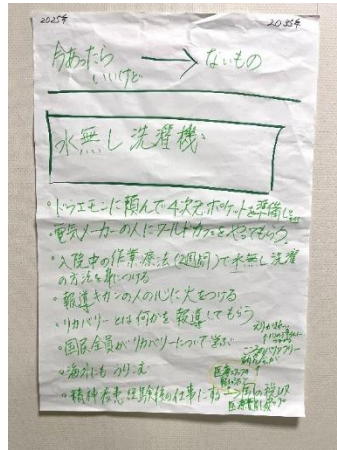
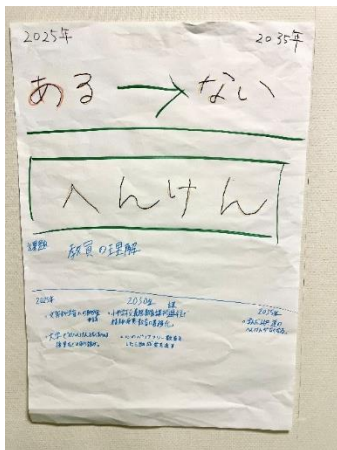
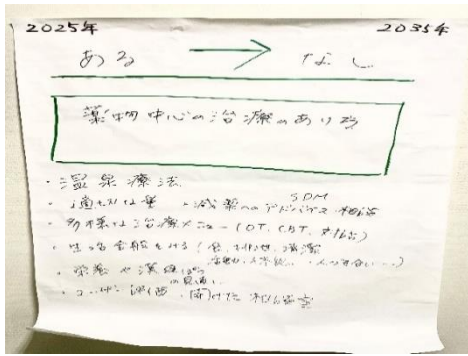
「今ない⇒10年後ある」 それは、何？

それを現実にするために何をしますか？

今ある⇒10年後ない」 それは、何？

それを実現するために何をしますか？





あれから少し時間が経ちました。

みなさんは、今、どこで何をしているのでしょうか？

僕は、この数か月、いろんなところに行ってはリカバリーの話をし、ピアサポートの話をしていました。10年後には、リカバリーが当たり前になっている。そして、ピアサポーター達が大量、活躍している。そんな10年後を思い描いて、旅しています。

...

さて、改めて、

みなさんの“次の10年”は、どんな世界でしょうか？

今日も、一步一步、積み上げていきましょう。

来年は、  
また少し“いい時代”になっていると思っています。

次の未来で、会いましょう！！

## 【障がい者ピアサポート研修 実施状況と受講者報告】

金山 達也（NPO 法人日本学び協会ワンモア豊中）

今回のシンポジウムは「障がい者ピアサポート研修 実施状況と受講者報告」を企画させて頂きました。

障がい者ピアサポートとは、同じような経験を持つ障がい当事者同士が互いに支え合う活動でこのような支援の担い手を育成するため、各地でピアサポーター養成研修が実施されています。



障がい者ピアサポート研修において全国各地で研修講師として活動されている特定非営利活動法人あすなろの彼谷哲志さんから研修の概要、この研修が当事者と専門職が共に学ぶという特徴があるなどお話しいただきました。

専門職の受講者として生活支援センターほおずきの田中里未さんには現場でのピアサポーターとの協働の経験談、兵庫県但馬で地域全体としてピアサポーター活動が文化として根づいてきている現状をご報告いただきました。

また、ピアサポーターの受講者の自立センターえさかの宮崎未来さんからは研修を受講して感じたこと、当事者として感じてきた葛藤、疑問などをお話しいただきました。

質疑応答では時間内で答えられないほどの質問をいただき、障がい者ピアサポート研修の存在意義、問題と思われる点も意見が出ました。